

泡瀬漁港（沖縄県沖縄市）

●地域の特徴

泡瀬漁港は沖縄市東部に位置し、東部海浜開発地区や泡瀬干潟に隣接する都市近郊型漁港である。漁業と都市観光が近接しており、レジャー・交流機能との連携可能性が高い。また、海中道路や東海岸観光ルートにも近く、広域からの来訪が期待できる立地である。

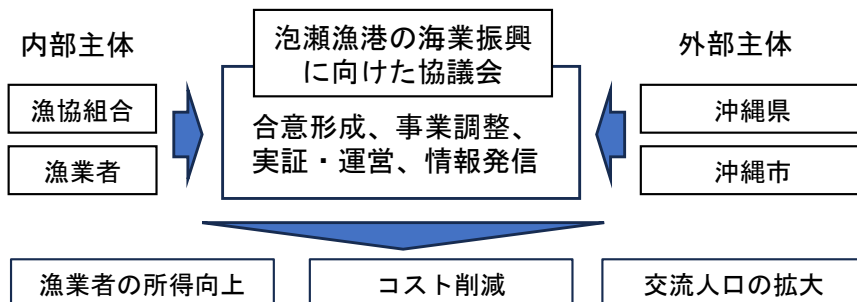
●取組に至った背景

- ・ 漁業就業者の高齢化や担い手不足が進み、組合員数・経営体数・漁獲量はいずれも減少傾向にある。一方で都市近郊という立地を活かした交流人口の拡大や漁業収入の多角化が求められており、海業による漁港の有効活用を検討することとなった。

●取組の概要

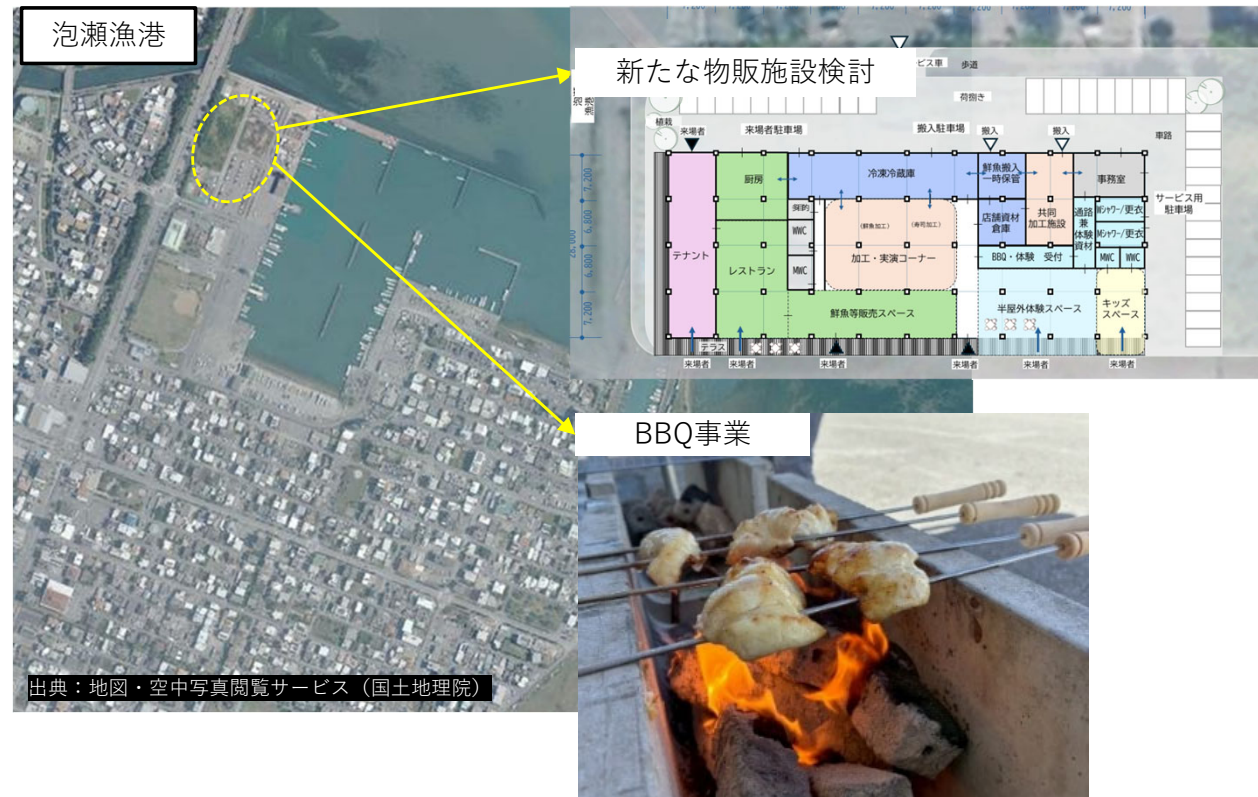
- ・ 活用類型 : 飲食・物販・マリンレジャー・交流拠点
- ・ 立地特性 : 都市近郊・観光拠点隣接
- ・ 施設の状況 : 既存施設・用地の有効活用
- ・ 活用施設 : 荷捌施設、用地、緑地等
- ・ 取組内容 : 飲食・物販機能、マリンレジャー関連サービスなどを段階的に導入し、交流拠点形成を図る

●実施体制



●活用推進計画の概要

- ・ 計画策定（予定）日：令和9年4月頃
- ・ 実施（予定）期間：令和10年～40年間（30年間）
- ・ 漁港管理者：沖縄県
- ・ 事業目的：漁港施設の有効活用による地域活性化及び交流促進
- ・ 事業概要：新たな物販施設を核とし、飲食・物販・マリンレジャー等を組み合わせた海業を推進し、地域経済の活性化を図る。



期待される成果・効果

（定量的効果）交流人口の増加、飲食・物販利用者数の増加、新たな海業事業者の参入、地域経済波及効果の創出 等

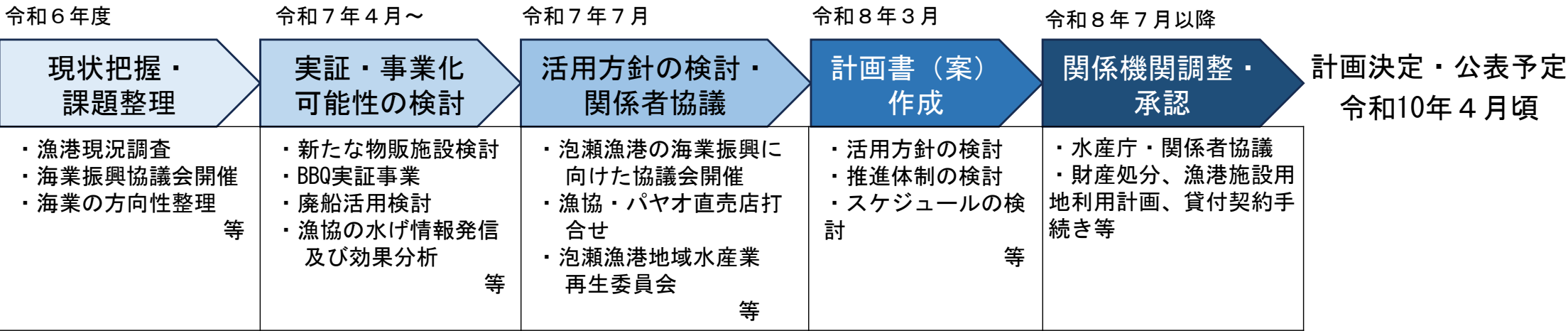
（定性的効果）漁港空間の有効活用、漁業と観光の連携強化、地域住民・観光客の海への理解促進

泡瀬漁港（沖縄県沖縄市）

●参考情報

- ・関連する法令・通知：なし
- ・参考にした他事例・資料：なし

●活用推進計画策定のプロセス



●合意形成・関係者調整

- ・関係者の範囲：沖縄県（漁港管理者）、沖縄市、沖縄市漁業協同組合、民間事業者、地域関係者等
- ・調整のために行ったこと：泡瀬漁港の海業振興に向けた協議会を組成し、令和6年度から協議会を実施。特に泡瀬漁協、沖縄県、沖縄市間の調整を重視した協議を実施。
- ・調整において苦労した点：漁業活動を維持しながら、新たな海業利用との調和を図ること。
- ・やってよかった取組：既存の日曜セリ市開催と合わせてBBQ実証を行い、消費者に対して従来とは異なる水産物の食べ方を提示することができた。漁協のInstagramを開設し、日々のセリ情報や日曜セリ市の開催情報を発信したところ、地元テレビ番組にも取り上げられ、認知度向上につながった。

●課題（原因分析を含む）及び今後の対応方針

- ・計画策定をする上での困難な点：漁港施設を海業へ活用する区域設定や、既存漁業との利用調整等について関係者間で整理・検討する必要があった。
- ・海業を実施していく上で現在の課題：漁港の機能低下や漁業従事者の減少といった懸念があり、複数の収入源・用途を持ちつつも、漁協のマンパワー不足な状況もあるため、関係者間で連携しながら対応し、地域住民にも観光客にも愛される拠点・海業モデルを構築する必要がある。
- ・今後の展開・拡張予定：新たな物販施設整備において、飲食・物販・体験・マリンレジャー等を導入し、漁港を水産＋地域振興の拠点として形成する。

●他の漁港管理者へのアドバイス

- ・取組を始める際に重要だったこと：施設整備の方針を抱えつつ、施設の中でどのようなコンテンツを提供できるのか、また施設を拠点にしながら漁港全体でどのような空間形成が図れるか、複合的な視点から検討した。
- ・事前に調整しておけばよかったこと：泡瀬の場合は行政、漁協、漁業者の限られた体制であったが、関係者が増える・広がるほどに、共通のビジョンやゴールを持つておく必要がある。